

社会科3分野共通の特色

① 3分野の連携を図った10のポイント

社会科3分野(地理・歴史・公民)での連携や、小学校との連携を図っています。「小・歴・公」アイコンを設置したり、「小学校・歴史・公民・他教科との関連」コーナーで関連する学習事項を提示したりしています。

① 主体的・対話的な学びを促す「導入」

本資料p.5-10、13、19-20、29、32

▶写真やイラストを効果的に使った導入を設けています。興味・関心を高めるだけでなく、これから学ぶ内容を見通すことができます。

地理 ↓「写真で眺める」
教科書p.64-65など



歴史 ↓「タイムトラベル」
教科書p.134-135など



公民 ↓「学習の前に」
教科書p.116-117など

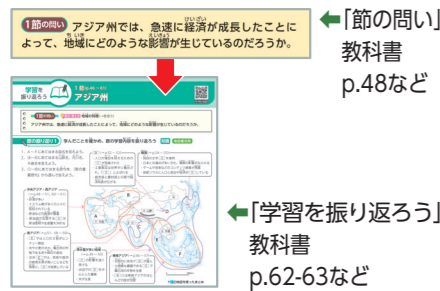


② 見通し・振り返りがしやすい単元構成

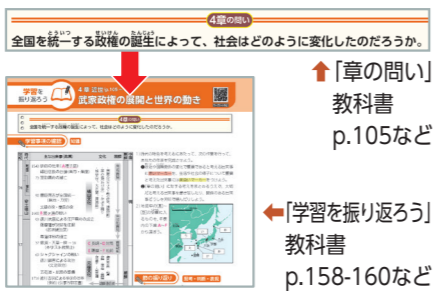
本資料p.29-36

▶単元の最初に設置している「章・節の問い」で学習の見通しを立て、章・節末の「学習を振り返ろう」で単元の振り返りができます。見通し・振り返り学習を積み重ねることで「章・節の問い」にせまれるよう、「問い」を構造化しています。

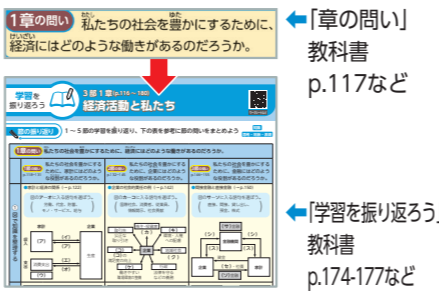
地理



歴史



公民



③ 「主体的・対話的で深い学び」を促す「アクティブ」

本資料p.37-40

▶設定されたパフォーマンス課題について、単元の学習を生かして考察し、他者との意見交換を通して学びを深めることができます。

地理 ↓「アクティブ地理」
教科書p.281-282など



歴史 ↓「アクティブ歴史」
教科書p.156-157など



公民 ↓「アクティブ公民」
教科書p.166-167など



④ 毎時間の学習における「問い」

▶章・節の「問い」を受けて、本文ページには「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」を設置し、学習の到達点を毎時間確認できます。

本資料p.30-31、33-34

地理

本文ページ
教科書p.50-51など

歴史

本文ページ
教科書p.148-149など

公民

本文ページ
教科書p.134-135など

⑤ 「見方・考え方」を働かせる工夫

▶「深い学び」のカギとなる「見方・考え方」は、本文ページや章・節末の「学習を振り返ろう」など、さまざまな箇所でも働かせることができます。

本資料p.49-50

地理

教科書
巻頭8、p.78など

歴史

教科書
巻頭8、p.159など

公民

教科書
巻頭8、p.18-19

⑥ 防災意識を育む工夫

▶地理では災害の要因となる現象、歴史では災害の経験、公民では災害に対する行動を扱い、防災意識を育めます。

本資料p.43

地理

「日本の地域的特色」
教科書p.146-151など

歴史

「未来に向けて自然を生かした信玄堤」
教科書p.97など

公民

「防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう」
教科書p.16など

⑦ 我が国の領土への理解を深める工夫

▶地理では日本の領域の範囲、歴史では領土画定の経緯、公民では国としての対応を扱い、日本の領土について正しく理解できます。

本資料p.64、67

地理

「日本の領域とその特徴」
教科書p.18-19など

歴史

「日本の領土画定と近隣諸国」
教科書p.286-287など

公民

「領土をめぐる取り組み」
教科書p.186-187など

⑧ 地図の活用を促す工夫

▶「地図帳活用」を設置し、活用場面がよりわかりやすくなっています。また、豊富な地図の読み取りを通して、空間認識能力を高めます。

本資料p.51

地理

教科書
巻頭10、p.226など

歴史

教科書
p.69など

公民

教科書
p.186-187など

⑨ 小学校・他分野との関連を図る工夫

▶小学校や他分野の学習事項を生かせるよう、問いの文章を工夫したり、アイコンや側注で既習事項を提示したりしています。

本資料p.24、67

地理

小 歴 公

小学校・歴史・公民・他教科との関連

歴史

小 地 公

小学校・地理・公民・他教科との関連

公民

小 地 歴

小学校・地理・歴史・他教科との関連

⑩ SDGsへの意識を育む工夫

本資料p.41-42、55-56

▶「未来に向けて」では、地理では地域の事例、歴史では過去の経験、公民では自らが考える課題を取り上げ、SDGsについての理解が深まるようにしています。

地理 ↓「未来に向けてよりよい社会を目指して」
教科書 巻頭1-2



歴史 ↓「未来に向けてよりよい社会を目指して」
教科書 巻頭1-2



公民 ↓「未来に向けてよりよい社会を目指して」
教科書 巻頭1-2



社会科3分野共通の特色

②学習がより深まる他分野および地図帳との連携 ～「未来に向けて」を活用して～

「未来に向けて」は、未来の社会をつくる取り組みを紹介するコラム・特設です。地理・歴史・公民共通で設置しており、分野をまたいで学習を深めたり、多面的・多角的な見方を養えたりします。このページでは「環境保全」をテーマに、中学校社会科でどのように学びを展開していけるか一例を示しています。

1・2年生


3年生

未来に向けて 脱炭素社会に向かうヨーロッパ **環境・エネルギー**

ヨーロッパでは、脱炭素社会(→p157)に向けた取り組みが数多くみられます。再生可能エネルギーの導入をはじめ、環境への負荷が小さい鉄道の利用促進、電気自動車の普及に向けた充電スタンドの設置などがみられます。

2018年ごろからは、ヨーロッパの各地で、多くの人が参加し、政府に対して気候変動への対策を訴えかける運動も活発になっています。脱炭素社会の実現のためには、それを支える技術革新やしくみづくりとともに、個人がもつ意識の変化も重要となってきます。

→4 フランスのパリに向かう国際夜行列車に乗り込む人々(オーストリア、ウィーン、2021年) 航空機や自動車に代わる長距離の移動手段として、夜行列車の利用が見直されています。



↑地理的分野 p.75


地理的分野

現状を学ぶ・地域の事例を学ぶ

地理的分野の学習では、環境保全のために世界・日本で行われている取り組みを紹介しています。「脱炭素社会に向かうヨーロッパ」では、環境負荷の小さい移動手段として、夜行列車の利用が見直されていることを紹介しています。

未来に向けて 江戸のごみを利用した農業 **環境・エネルギー**

江戸時代半ば、砂村(現在の東京都江東区)では、野菜の促成栽培が行われました。江戸の町から出たごみを堆積し、発酵の際に出る熱を利用して早めに種をまくことで、早めの収穫を行いました。砂村の野菜は、初物好きの江戸の人々の間で大人気となり、高値で取り引きされ、ブランド野菜として将軍への献上品にもなりました。また、砂村のねぎやきゅうり、にんじんなどの野菜の品種は各地で栽培されるようになりました。



↑歴史的分野 p.155

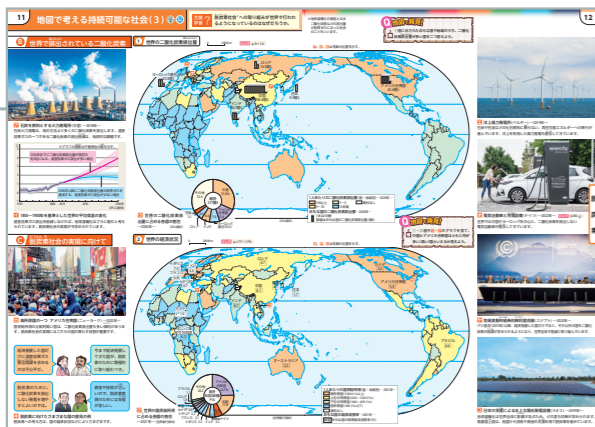
歴史的分野

過去の取り組みを学ぶ

歴史的分野の学習では、環境保全のために過去に行われていた取り組みを紹介しています。「江戸のごみを利用した農業」では、ごみを発酵させるときに発生する熱で野菜の促成栽培が行われていたことを紹介しています。

地図帳

地図帳は各分野で幅広く活用できる社会科共通の教科書です。地図帳p.11-12では脱炭素社会の実現に向けた取り組みに関するさまざまな資料を掲載しています。各分野の学習で活用することで、より学びを深めることができます。



↑地図帳 p.11-12

地図帳

地図帳は各分野で幅広く活用できる社会科共通の教科書です。地図帳p.11-12では脱炭素社会の実現に向けた取り組みに関するさまざまな資料を掲載しています。各分野の学習で活用することで、より学びを深めることができます。

未来に向けて 環境保全への取り組み **環境・エネルギー**

① **ごみの焼却炉から金・銀を回収(神奈川県相模原市)**
神奈川県相模原市は、2021年度の1年間に一般ごみとして捨てられた電子機器などから、金・銀それぞれ約15kgを回収することに成功しました。市内の焼却炉では、高温に熱されたごみを用いて、ごみを煮し焼きにしています。ごみの多くはガスとなって燃焼しますが、電子機器の基板などに含まれる貴金属は燃え残り、焼却炉の底にたまっていきます。相模原市は3年前から焼却炉メーカーと共同で、この焼却炉の底から金・銀を回収する技術を開発してきました。その結果、21年度に回収した金・銀は約1億3000万円となり、回収費用の約1億円を差し引いて、約3700万円の収益を上げました。収益は清掃工場の補修費や環境啓発活動などに使われています。

② **日本最大級の電力消費企業の脱炭素への挑戦(三重県四日市市)**
三重県四日市市で創業したA社は、全国に約2万店舗を展開し、日本全体の電力の約1%を消費する日本最大級の電力消費企業です。A社は2018年に脱炭素に向けた計画を定め、店舗で排出する二酸化炭素などを50年までに総量でゼロにするという目標を掲げました。また、中期目標として30年までに店舗の使用電力の50%を再生可能エネルギー(→p.198)に切り替えるとしています。A社は二酸化炭素排出量の約9割が電力によるもので、省エネルギー設備を導入して使う電力を減らしたり、太陽光パネルを設置して再生可能エネルギーへ転換したりすることで、目標の達成を目指しています。また、電力会社と連携して個人の家庭で発電された電気を買い取り、買い物に使えポイントで還元するしくみも導入しています。20年には使用電力のすべてを再生可能エネルギーで賄う店舗も誕生しました。

NEXT2030へのヒント 2030年のSDGs達成とその先を目指して

私たちの生活は多くのモノやエネルギーを消費して成り立っています。モノやエネルギーを安定に確保することは、豊かな社会を維持していくためには不可欠です。しかし、人々の経済活動の拡大によって、地球温暖化などの地球環境問題が広がっており、大量消費を前提とした社会は持続可能とはいえなくなっています。これからは、地域社会や地球環境へ与える影響も考慮しながら、モノやエネルギーをどのようにつくり、使い、処分するかを考えていく必要があります。私たち消費者もひとりごとではなく、ふだんの生活や消費活動を見直していくことが大切です。

公民的分野

未来の社会をつくる行動を考える

公民的分野の学習では、環境保全のために行われている取り組みと、今後の展望を「NEXT2030へのヒント」で取り上げています。「環境保全への取り組み」では、自治体と企業の取り組みを紹介しつつ、消費者も普段の生活や消費活動を見直すことが大切だと結んでいます。環境保全を「自分ごと」として捉え、自分たちにできる取り組みを考えさせることができます。

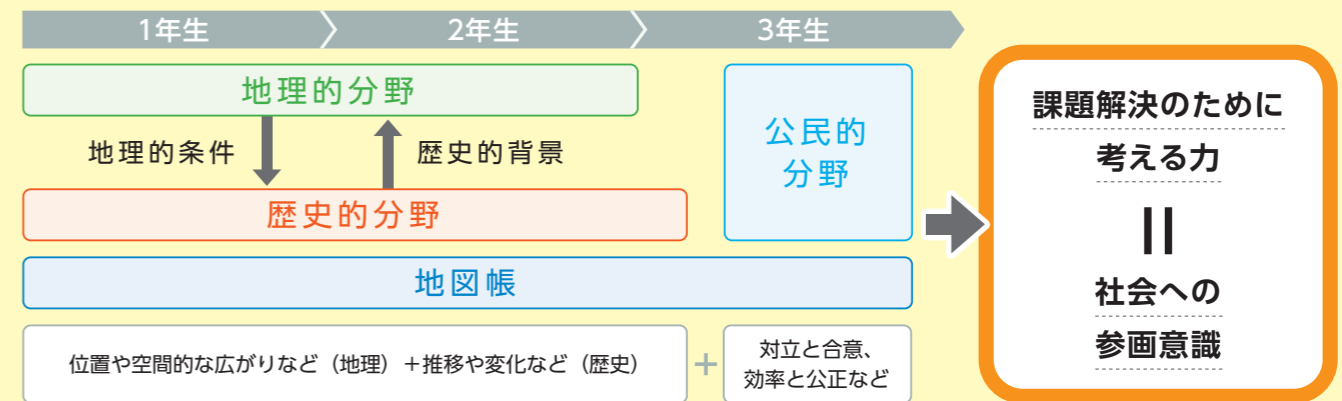
自分たちにできる取り組みについて、地理や歴史の学びをヒントに考えることができます。

←公民的分野 p.178

ポイント

分野間連携の必要性

下の図のように、中学校社会科は地理と歴史を関連付けながら学び、その蓄積を踏まえて公民の学習がある構造になっています。そのため、どの分野においても教科全体を見通したカリキュラム・マネジメントが必要です。



帝国書院の教科書では、単元構成・紙面構成を統一し、コラムや特設なども共通にすることで、カリキュラム・マネジメントをサポートしています。これにより、分野をまたいだ深い考察や多面的・多角的な見方を養うこともできます。

共通の特色

学習がより深まる他分野および地図帳との連携